



ITエンジニアの約6割が職場で「AI格差」を実感 「AIスキルによる年収格差は拡大する」と65%が予想

ITエンジニアのAI活用に関する実態調査

ITエンジニアのAI活用に関する実態調査

ITエンジニアの約6割が職場で「AI格差」を実感
「AIスキルによる年収格差は拡大する」と65%が予想



「日本を、IT先進国に。」をビジョンに掲げるレバテック株式会社(<https://levtech.jp/>)は、ITエンジニア572名を対象に、「ITエンジニアのAI活用に関する実態調査」を実施しました。

<調査サマリー>

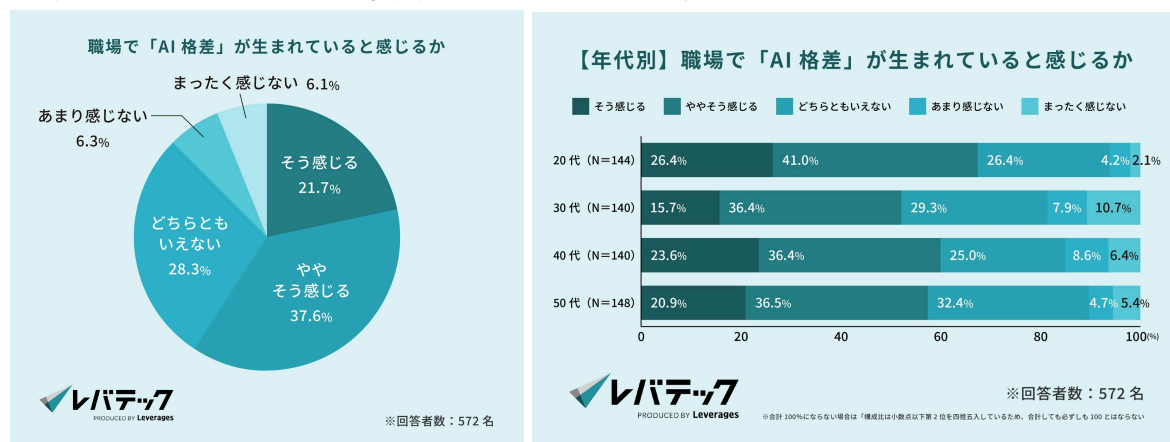
1. ITエンジニアの約6割が、職場でAI活用スキルによる「AI格差」を実感
2. AI格差が最も表れるのは「担当できる業務範囲の差」、評価・昇進にも波及
3. 今後AIスキルによる年収格差が「拡大する」と65.0%が予想、20代で顕著な傾向

1. ITエンジニアの約6割が、職場でAI活用スキルによる「AI格差」を実感

職場でAI活用スキルによる「AI格差」*1が生まれていると感じるか尋ねたところ、「そう感じる(21.7%)」「ややそう感じる(37.6%)」を合わせて59.3%のITエンジニアが「AI格差が生まれていると感じる」と回答しました。

年代別で見ると、20代では「そう感じる」「ややそう感じる」の合計が67.4%に達しており、30代(52.1%)、40代(60.0%)、50代(57.4%)と比較して最も高い結果となりました。

*1AI格差=AIの活用能力の差が、業務評価・年収・キャリアなど目に見える処遇の違いにつながっている状態

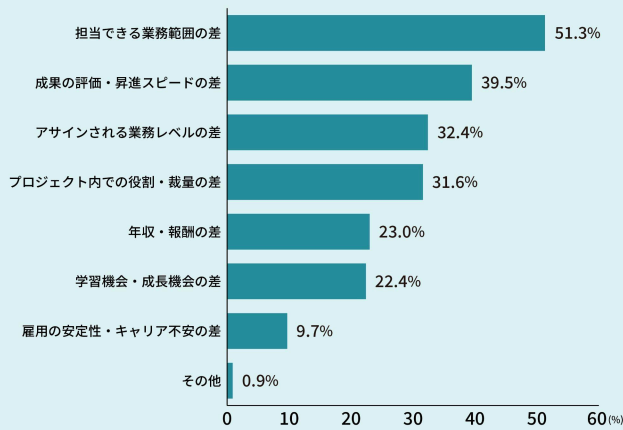


2. AI格差が最も表れるのは「担当できる業務範囲の差」、評価・昇進にも波及

実際に「AI格差」がどのような点に表れているかを聞いたところ、「担当できる業務範囲の差(上流工程・意思決定への関与など)」が51.3%で最多となりました。次いで「成果の評価・昇進スピードの差(39.5%)」「アサインされる業務レベルの差(32.4%)」と続いています。

AI活用スキルの差が単なる作業効率だけでなく、上流工程への参画やプロジェクト内での裁量権、社内での評価や昇進にまで影響を与え始めている実態が浮き彫りになりました。

「AI格差」は、どのような点に表れていると感じるか（複数回答）



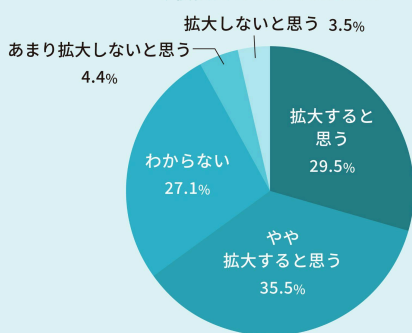
※回答者数：職場で「AI格差」が生まれていると感じると回答した方 339名

3. 今後AIスキルによる年収格差が「拡大する」と65.0%が予想、20代で顕著な傾向

今後、AIを使いこなせるエンジニアとそうでないエンジニアの間で、年収格差は拡大していくと思うかという問いに対し、「拡大すると思う(29.5%)」「やや拡大すると思う(35.5%)」を合わせて65.0%のエンジニアが「拡大する」と予想しました。

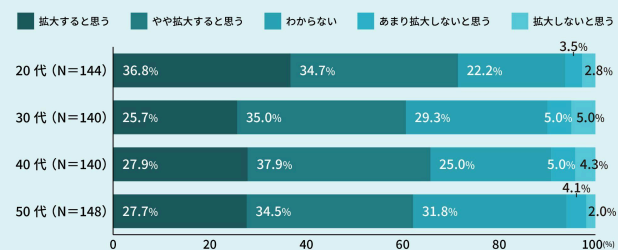
特に20代では「拡大する」と回答した割合が71.5%を占めており、他の年代と比較しても、AIスキルが将来の報酬を左右するという意識が強いことが分かります。

AI活用スキルによるエンジニアの年収格差は
今後拡大していくと思うか



※回答者数：572名

【年代別】AI活用スキルによるエンジニアの年収格差は
今後拡大していくと思うか



※回答者数：572名

※合計100%にならない場合は「構成は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない」

〈レバテック株式会社 代表執行役社長 泉澤 コメント〉

今回の調査では、約6割のエンジニアがすでに職場で「AI格差」を実感しており、その影響はアサインされる業務レベルや評価、ひいては将来の年収にまで及ぶと考えられていることが明らかになりました。特に20代ではその傾向が顕著であり、AI活用スキルがキャリア形成に与える影響を強く意識していることがうかがえます。

実際にレバテックのデータを見ても、AI関連求人*2は直近1年間で166.2%増加*3しており、生成AIやAIエージェントなどの技術理解に加え、それらを活用して業務改善や新たな事業価値の創出につなげられる人材への需要が急速に高まっています。

今後、AI活用力はエンジニアの市場価値を左右する重要な要素の一つになっていくと考えられます。企業には、AI活用スキルの習得を支援する環境整備に加え、その成果や挑戦を適切に評価・還元できる仕組みづくりが求められるでしょう。

*2 AI関連:「Copilot, GPT, プロンプトエンジニア, 生成AI, 大規模言語モデル, LLM」のいずれかを求人名、仕事内容、要求スキル(必須・尚可)のいずれかに含む求人

*3: 2025年12月時点(前年同月比)

◆泉澤 匡寛・プロフィール



2017年、レバレッジズ株式会社に入社。新規事業の責任者として、IT特化型就職支援サービス「レバテックルーキー」や、複数サービスを立ち上げ、事業の基盤を築く。

2021年、レバテック ITリクルーティング事業部部長に就任し、事業戦略の立案、採用、業務最適化を推進し、複数ブランドの成長を多角的に牽引。2023年4月にレバテック執行役員に就任し、2025年4月1日付で執行役社長に就任。

〈調査概要〉

調査年月: 2026年5月26日～2026年5月28日

調査方法: インターネット調査

調査主体: レバテック株式会社

実査委託先: GMOリサーチ&AI株式会社

有効回答数: 572名

調査対象: 20歳～59歳のITエンジニア

レバテック株式会社

レバテック株式会社は、「日本を、IT先進国に。」というビジョンを掲げ、IT人材の仕事探し・採用支援を行うHR事業に加え、企業のDX推進・内製化支援を行う事業を多角的に展開。

企業と個人の両面から課題解決を行い、日本の経済成長を牽引することを目指しています。

▽「レバテックフリーランス」フリーランスエンジニア専門エージェント

<https://freelance.levtech.jp/>

▽「レバテッククリエイター」フリーランスクリエイター専門エージェント

<https://creator.levtech.jp/>

▽「レバテックダイレクト」ITエンジニア・クリエイター専門求人サイト

<https://levtech-direct.jp/>

▽「レバテックキャリア」エンジニア/クリエイター専門の転職支援

<https://career.levtech.jp/>

▽「レバテックルーキー」エンジニアに特化した新卒向け就職支援エージェント

<https://rookie.levtech.jp/>



レバレジーズ株式会社 (<https://leverages.jp/>)

本社所在地 : 東京都渋谷区渋谷二丁目24-12 渋谷スクランブルスクエア24F/25F

代表取締役: 岩槻 知秀

資本金 : 5,000万円

設立 : 2005年4月

事業内容 : IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業、SaaS事業、M&Aコンサルティング事業など

「社会課題の解決」を軸に、IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業・SaaS事業、M&Aコンサルティング事業など、国や業界をまたいだ様々な領域で60以上のサービスを展開。2005年に創業以来、黒字経営を継続し2025年度は年商1700億*を突破しました。業界を絞らないポートフォリオ経営と、各分野のスペシャリストが集うインハウスの組織体制で、時代を代表するグローバル企業を目指します。※会計基準変更後

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ

レバレッジズ株式会社 広報部

TEL:03-5774-2900 MAIL: pr@leverages.jp